

鷺宮高校 社会科フィールドワーク通信 Vol.6(2024. 1 月)

社会科同好会準備編③

2024年元旦の能登半島大地震に呆然としながらも1月5日(金)、「社会科同好会(仮・申請中)」のうち、1学年生徒1名＋社会科教員1名で、市ヶ谷にある「JICA地球ひろば」に行ってきました。(本当は数名で行くはずが、体調不良や親戚訪問などがあるようで…館員の方に大変申し訳なかったです。できれば懲りずにもう一度訪れたいです。

「JICA地球ひろば」は、開発途上国を中心に世界が抱える問題、例えば貧困や病気、教育、環境などについて、市民にわかりやすく学んでもらう場を提供しています。現在は、「難民企画展 Today, I Lost My Home 想像していなかった今日を生きる」が開催中でした。ウクライナで、パレスチナで、そしてアジアやアフリカで、難民となった人々に、思いをめぐらせることができました。見学前に「ひろば案内人」の大道さんが、ご自身のJICA海外協力隊の経験談をお話してくださり、見学中も解説をしてくださいました。本当にありがとうございました。

以下、参加した生徒の感想を紹介します。

◆はじめは、JICA海外協力隊の大道さんにJICAとはどのような機関なのかを教えてくださいました。JICAが実施している協力には大きく分けて3種類あり、それらを組み合わせることでより効果的な協力となっていました。次に、JICA海外協力隊の活動についてお聞きしました。いただいた資料に記載されていたJICA海外協力隊の職種一覧表には約200種類もの職種があり、自分が考えていたよりも気軽に協力できるものなのだと思います。また、大道さんがガーナで柔道の技術指導・普及活動をした際のお話も伺いました。ガーナの情報をクイズを交えながら知ることができ、とても勉強になりました。大道さんがガーナで柔道の普及活動を進めていくにあたり、障壁となったのは指導していた子どもの親だと聞き、驚きました。理由としては、ガーナではスポーツよりも学校の勉強や家の手伝いを優先させたい親が多かったからです。

大道さんのお話を伺ったあと、黒田先生と向かった難民企画展の体験コーナーで、設定上の人物になりきり、入国審査を受けるまでの道のりや困難の疑似体験をしました。(設定上の)体力やメンタルを消費しながらも何とか入国審査を受けることができ、これでもう安心と思ったのも束の間、理由によっては入国が認められないなど、何て理不尽なのだろうと思いました。しかし、世の中にはこのような思いをしている人が何億人いると知り、悲しいような悔しいような思いでした。

この体験コーナーは分かりやすく、切実に難民の人々の現状が分かる、良い催しだと思いました。展示されていた写真の中には小さい子どもを抱えた女性や裸足で歩く人々もありました。いまの日本に暮らしている私たちには縁もゆかりも無い話のように思えてしまいましたが、この企画展のキーワードでもある「ある日突然、あなたは難民になる。」という言葉の通り、いつ私たちも難民になるか分かりません。そんな時に、他の国々との助け合いが必要なのだと強く感じました。今回の見学で世界の現状がよく理解できました。理解したことで、私や私たちには何ができるのかを常に考えていきたいと思います。



アフリカのガーナで柔道を通じて国際協力をおこなった大道さんからお話をうかがいました。

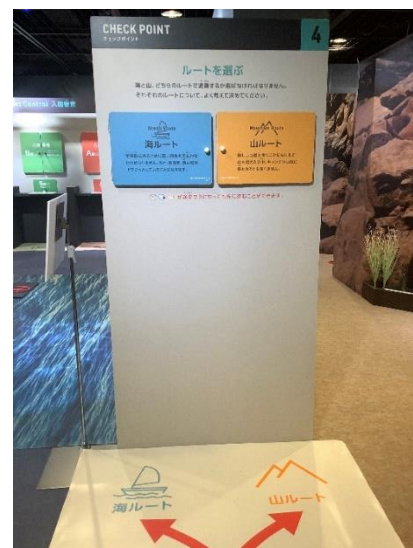




難民が迫られる数々の選択を
疑似体験する企画展示です。



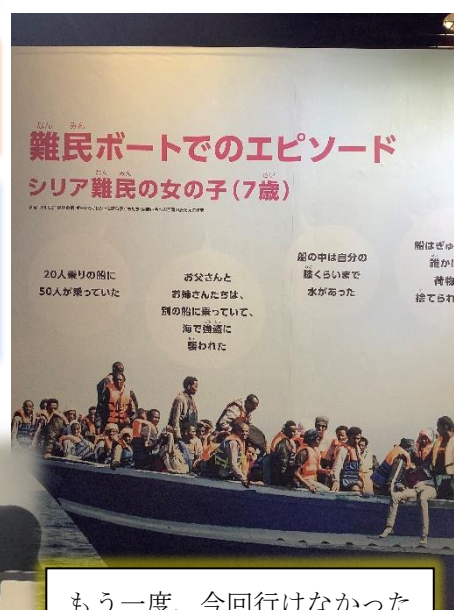
1人ずつ違う「パスポート」が渡
されます。顧問は40代ですが
開けたら17歳の設定でした。



避難する国はどこ？何を持っていく？ペットは連れていけるのか？
ルートは海？山？どちらがより安全？命と尊厳をかけた選択の数々・・・



難民ボートを再現した空間に
座ると鏡で自分の姿を見ることが
できます。



もう一度、今回行けなかった
メンバーと見に行きたい！と
思う難民企画展でした。